

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1951380003
法人名	医療法人社団 青虎会
事業所名	医療法人社団青虎会 グループホームはまなす
所在地	〒 401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津2207 電話番号 0555-83-3310

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】平成20年9月20日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	7人	常勤	7人	非常勤	0人	常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 0 ~ 全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり ○ 円			

(4) 利用者の概要 H20, 9, 20 現在

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.9 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山梨赤十字病院 井ビン歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年10月16日

医療法人社団 青虎会を母体とするこのグループホームは、介護老人保健施設、通所介護施設、居宅介護支援センター、クリニックと併設されており、医療面での対応も迅速にできる環境にある。管理者は、利用者本位である介護を実施すること、地域に開かれた施設であることを、開設当初より、熱心に取り組んでおり、職員も研修を重ね、質の高い介護を提供している。また、利用者の明るい笑顔や、生き生きと生活している様子が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善シートを用い、理念の見直し、介護計画の見直し、栄養摂取水分確保の支援の見直しを具体的に行っていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 全職員が、自己評価を見て、その意義について理解し、話し合いや意見交換したものを、ケアマネジャーがまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に一度の会議は、地域からの参加が、ここ一年ぐらいで積極的になってきた。話し合いだけでなく、グループホームでの行事への参加も、積極的にしてくれるようになり、グループホームと地域とのつながりは、着実に強まっている。具体的な避難訓練のアドバイスも受けている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回の家族交流会や、行事の参加の時、面会の時など、あらゆる機会をとらえて、家族からの意見や、気持ちを吸いあげようと努力している様子が、見られる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩の時、町内のゴミを拾うなどする中で、地域とのつながりが密になってきており、今年から、自治会に加入することができ、行事にも準備から参加するようになり、グループホームが積極的に地域と関わろうとする姿勢が見られる。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームはまなす

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々とともに、ゆっくり一緒に楽しく、豊かに」を理念とし、地域密着型サービスの意義を職員全員が理解し、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを展開している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日々の介護の場面を見て、職員一人ひとりに声をかけ、理念と介護が結びつくようにしている。職員も、日々意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日、散歩に出て、時にはゴミ拾いをしてくれる。近所では、利用者が休めるようにと、イスを置いてくれる家もある。今年より、念願であった自治会にも加入することができ、地域の行事も準備から参加している。時には、近所の子供達もホームに立ち寄ることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善シートを利用し、前回の評価が、具体的に改善できるような取り組みがされている。自己評価は、全員で意見を出し合いまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練のアドバイスをいただいて、サービス向上に活かしている。また、地域からの参加が積極的に見られるようになって、ホームが地域に理解されている様子が伺われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の内容の検討にも、意見を町からもらったり、お互いの情報交換を密に行ったり、相談ケースの家庭訪問を一緒に行くなどして、連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回の便りと請求書は、家族の面会時に手渡し、利用者の状況を直接伝えるようにしている。面会のない場合は、郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に二度、家族交流会を実施しており、今年は一泊しながら、利用者、職員とともに過ごした。その中から、家族の気持ちをくみ取る努力をしている。日常では、何でも話せる雰囲気につけていく。また、第3者窓口もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に一度、施設間の異動はあるが、現状では、ホーム職員の異動はない。異動のある時には、引き継ぎ期間を充分にとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設に、学習委員がおり、老健医師を中心に、職員に何を学びたいかアンケートをとるなどして、月1回の勉強会の内容が検討される。月1回の勉強会には、その時に、業務のない職員全員が参加している。また、町や県が主催の研修会はもちろん、全国的な研修会にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の会議には、必ず参加していて、情報交換をしている。また、過去には、近隣のグループホームを訪問し、交流を行ったことがある。近年は、相手方の諸事情等により、交流は途絶えている。	○	同業者との交流は、お互いに新しい発見をすることができ、サービスの質の向上にもつながる。他のグループホームと定期的に、交流や連携を行えるよう、積極的な働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問を数回する中で、馴染みの関係づくりをしている。また、見学や体験も短い時間から、長い時間するように、少しずつ馴染んでいけるよう、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	四季折々の料理を教えてもらったり、また、お客さんの対応の仕方やマナーを教えてもらうなど、職員が利用者から学ぶ様子が見られる。また、利用者の気遣いの言葉に、職員が支えられる場面も見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、利用者や家族との会話から、思いや意向を汲みとり、メモから記録に残し、職員全員が把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	共通シートを用いて、利用者、家族の意向を踏まえて、職員全員が話し合い、気付きを記入していく。それをもとに、ケアマネジャーが介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化の生じた場合は、面会時に、家族カンファレンスをして、計画を見直している。月に一度、介護ミーティングで職員に計画の確認をし、3か月毎に、評価している。また、評価や見直しは、介護経過にも記入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「近所の人に会いに行きたい」「ちょっと家を見に行きたい」等、利用者の希望に応じて、同行するなど、柔軟な支援をしている。また、併設施設から看護師も1日1回は、利用者の状況を見に来てくれる。以前には、利用者が併設施設にリハビリに通ったりしたこともあった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じて、家族がなるべく同行できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの例は一例あり、家族との話し合いもち、意向に沿うことができた。利用者たちも声をかけ、見送ることができた。職員は、ターミナルについての研修を受けている。また、併設施設から、医師、看護師の協力も得られている。現状では、家族や利用者の意向に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の管理には気をつけ、現金出納帳は、鍵のある引き出しに管理している。また、排せつの介助は、利用者の態度を観察し、さりげなく行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や性格を理解し、個別の対応をしている。同じ事を話す場合も、利用者が受け入れやすいような言葉かけに注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、出来る利用者や、料理好きな利用者が職員とともにやっている。食事も職員と利用者が同じ食事を囲み、会話も豊かで、あたたかい雰囲気がつくられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入れるようになっている。利用者の好む時間帯を把握して、声かけをしている。拒否する利用者には、家族から声をかけてもらう等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ることは、積極的にしてもらっている。お互いに得意分野があり、利用者の役割ができていく。中には、洗濯のしわ伸ばしや、作法を教えるなどの役割もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に20～30分出かける。買い物には、毎日出かけ、食材を買ってくる。時には、喫茶店に入ることもある。また、地域的に年間通して、イベントがたくさんあり、町の催しには、なるべく出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないで出入りは自由である。番犬がいて、見慣れない人を吠える役割をはたしている。また、ドアベルをつけ、出入りに注意するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回、避難訓練をしている。また、消防署の指導により、抜き打ちで、夜間訓練も年2回している。現在、利用者全員が防災頭巾をかぶることができる。また、職員が車イスを持てるかなど、具体的に問題点を解決できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現状では、食事は全員普通食である。水分摂取の大切さを意識して、介護にあっている。毎日の献立は、併設の栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階が共用空間になっており、明るい光が入ってきて、四季の花が飾られ、ゆったりとしたソファもあり、居心地のよさが工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階が居室となっており、エレベーターを稼働している。使い慣れたベッドや家具が持ち込まれている。また、畳の部屋もある。		